





1年生とタオル

だだっ広い空だ。都内から電車で揺られ、ここに帰ってくるとほっとする。高い建物が少ない町の空を感じるから。

5年前、駅に西口ができ、その頃私たちは引っ越してきた。息子は1歳だった。駅前から新しい道路がずどんと伸びている。この道を私と息子は何百回と歩いた。それから1、2年して、息子に「今日用の事で行く場所」を地図にして渡したことがある。息子はその地図を母がプレゼントしてくれた愛車（三輪車）の前カゴに入れ「1ばん、ゆうびんきょく、2ばん、100えんしょっぷ」と確認しながら運転した（というか私が押して歩くのだけれど）。三輪車に買い物した袋やら水筒やらを引っ掛けて、どこへでも行った。それから妹が生まれ、息子はお兄ちゃんになった。三輪車からガラガラ音のする補助輪付き自転車に変わり、補助輪を外れいつの間にか6歳になった。持ち物に息子の名前を書いて書いて、息子の名前の由来をふと思い出しなが書いて、彼は小学生になった。

息子が小学校に入学して一週間。きっと毎日がんばっている。あの重い大きなランドセルを背負って、ぶかぶかの黄色い帽子をかぶって「行ってきます」と歩いて行く。息子が唯一教えてくれたのは、初日の給食のカレーをおかわりしたという話だけ（のような気がする）。妹とのロゲンカも言葉遣いも、なんだかちょっとあらあらしいんだよなあと思うこの頃。家ではしかめっ面ばかり。

私は子どもの頃、母と手をつないで歩くのが好きだった。母の手のひらは大きくてあたたかい。「みーちゃん、ほら」母の手はいつも差し出された。九州から関東に引っ越し不安だらけだった10歳の時。友だちに母と手をつないでいるところを見られたような気がした。母の手をぱっと振り払った。母がどんな顔をしていたか思い出せないのだけど、今でもあの時の自分の気持ちを覚えている。この頃から始まったのだろうか。自分の気持ちを隠すようになり、人に合わせる自分になっていったのは。なぜだろう。田舎者だと思われるのがいやだったのか。母が新しい土地でなんだか辛そうに見えたからか。そうだ、父のお酒が増えたのもこの頃で。少しずつ何かかぎくしゃくしていた。そして恥ずかしながら、自分を上手く表現できないまま私は大人になってしまった。

そういえば私も息子に負けず「しかめっ面」で。それは思春期の頃ではなく、つい4、5年前のこと。母に言わせると「反抗期」。私は自分に疲れていた。ずどんと伸びたあの道路沿いにある息子が好きな公園で、息子と一緒に裸足になって泥だらけで思いっきり遊んでいた時に、誰かに合わせるの『もうやめよう』とふと思った。それは決意だった。

「いい人」を演じていた。他人から、母から、良く思われたいと思う気持ちが強かった。私はどう生きたいのだろうと模索し、その中で、母のせいにしてしまった。そのことを強い言葉で母に伝えると、私の気持ちが整理されるまで、母は待ってくれた。大人になったはずの不機嫌な娘を責めもせず。いつしか気持ちが落ち着き、母は母であり、私は私である、ただそれだけのことが分かったらどうでもよくなった。そう思えるようになったのは3年くらい前のことだろうか。私と母はいつものようにまたおしゃべりするようになった。

去年、人間関係で悩んでいた時に、母に相談した。家に遊びに来た母は私の話をじっと聞いていた。帰るとき、孫の名前を呼びながら顔を両手で包み「またね」と言って笑う。私が「またね」と口にしたら、母は私の顔まで両手で包み、頭までなでた(!)。びっくりした。もう私は大人なのに。「お母さん、ありがとう」そう伝えると、涙がこぼれた。母が曲がり角に着くまで、その後姿を子どもたちと見送った。母は時々振り返り、曲がり角で私たちに大きく手をふって、帰っていった。

しかめっ面した息子が嬉しそうに笑った!それは、お風呂上がりに「タオル」で顔を包んでやった時。「うわ、ふわふわ、きもちいい」と頬ずりする。産院でもらった使い古しのいつものタオルではなく、私用に使うはずだった「薄頬紅」と書かれていたやさしい色のタオルでふいてあげたのだ。息子の何とも言えない嬉しそうなお顔。私まで嬉しくなる。「ぼく、このタオルこれからつかうことにするから」(ああ、とられた…)。けれど、1日の終わりにこんなにいい顔が見られるなら、こんなに嬉しいことはない。

息子のタオルに顔をうずめる。はあ、ほっとする。洗面所の鏡にうつる私の顔。息子ほど目を輝かせていないけれど、幸せそうな私がそこにいた。

しかめっ面してみたり、目を合わせて笑ってみたり、毎日いろいろ。そんな毎日は私は丸ごと味わいたい。











『1年生とタオル』 かなもり みゆき
1981年宮城県生まれ、大分県神奈川県育ち。主婦、二児の母。
2018年1月北千住にあるセンジュ出版「文章てらこや。」で
学び、モラルテックスに出会う。

Photo : NOJYO (高木俊幸写真事務所)
Design : 渡部 宏介
Edit : 鳥山 貴弘 鳥山 大介
Special thanks : 吉満 明子

ふれる 2018年8月4日発行 第1号
©2018 MORALTEX.Inc
禁無断転載

MORALTEX
●



<https://www.moraltex.tokyo/>